笹林公園のメーデー祭典

メーデー大会宣言

第四十七回メーデーはかってないインフレと不況の深まり、保守反動政治の終局間近という情勢のなかで、ここに盛大に挙行されています。

自民党政府の大企業奉仕、国民不在のあやまった政策は、公共料金をはじめとする物価値上げをもたらし、職場の労働者には首切り、賃下げ、公害・職業病・労災の多発が強要され、地方自治、教育の破壊が進んでいます。

一方、日本国中に大きな衝撃を与えたロッキード疑獄事件は、アメリカの巨大産業と自民党政府、財界、右翼の汚れたゆ着をはしなくも露呈しましたが、その根は深く、長期の保守政治支配、日米安保体制が生んだ構造汚職であることは明らかであります。

徹底究明を求める全国民の声を無視し、日米両国による陰蔽工作が進められているのです。

われわれはこれらの諸犠牲をはね返し、「生命とくらしを守る」ためには国民各層とともに、物価値上げ反対、人並みに生活できる大幅賃上げ獲得、全国一律最低賃金制の確立、首切り合理化粉砕、雇用保障、社会保障制度の大幅拡充、大幅減税、地方自治確立、教育反動化阻止などの闘いを精力的に展開していきます。

と同時に、腐れ切っている自民党内閣を打倒し、きたるべき総選挙に勝利するため総力を挙げます。

われわれはこのメーデーを起点に「七六国民春闘勝利」「三木内閣打倒・総選挙勝利」「ロッキード疑獄徹底究明」「市民のための市政確立」のため闘い抜くことを意志統一し、大会宣言といたします。

一九七六年五月一日

第四十七回大牟田地区統一メーデー大会

× ×

解説

不当処分を撤回せよ

大地評など各代表　亀井知事（福岡）に強く要求

十日、社会・共産の両党代表、それに大牟田地評とその加盟組合代表、自治労福岡県南筑総支部代表の二十数人（川口六平・社会党大牟田総支部委員長ら）は、土木事務所など県の出先機関六カ所を訪問、それぞれの機関長を通し、さきごろ亀井福岡県知事が県職労に加えた大弾圧に対して抗議するとともに、ただちに不当な処分を撤回するよう強く要求した。

亀井光・福岡県知事は去月十九日、福岡県職労に対して、懲戒免職三人をふくむ九千四十三人にものぼる大量処分を行ってきた。

地方公務員法、県庁内管理規則、組合活動禁止条例を盾にとってのことだったが、これについてはいち早く批判が集中し、「無謀な行政権の乱用」「労働運動への挑戦」だとの声が高い。また、全国の自治体ではまったく初めての前代未聞の大弾圧といわなければならぬ。

うち続く攻撃

昨年のこと同知事は、「財政の危機」を口実に、福岡県人事委員会に圧力をかけ、中央人事院の一〇・八五%を大きく切り下げた七・八一%を勧告させたうえ、さらにこれを値切り、県庁職員の初任給を逆に千九百円もひき下げたりした。

さらに、全国に例を見ないことだが、退職金制度を改悪、退職金をひき下げ、そのうえ体系を改悪しては管理体制の強化をはかったのだった。

ところがどうか、知事自信の側では退職金を増額（なんと六千万円）、月給をいっきょに十七万円も引き上げて、全国の県自治体としてはまさに最高額の六十九万円としたのである。

これは「一将功成り万骨枯る」式の横暴というほかなく、許されることではない。県職労働者二万二千の怒りとなって燃えあがり、七回に及ぶストライキをもって抗議することになったのは当然過ぎることだった。

憲法第二十八条は、また次のように述べている――「勤労者の団結する権利、及び団体交渉その他の団体行動をする権利は、これを保障する」。

何がねらいか

亀井知事があえて憲法を踏みにじってまでも、県職労に対し全国の自治体に例を見ない大弾圧を加えてきたねらいは何か。

亀井県政を含め、ロッキード疑獄事件を通して目ごとに強まる反動政治への批判の目をそらし、春闘から県民の目を切りはなし、そして県政の今以上の反動化を実現しようというのにほかならない。

これは、真剣に春闘のたたかいをすすめる全労働者ばかりでなく明るい民主県政を要求し、反動自民政治に反対する県民全体の問題だ。同知事に対して、あくまでこんどの不当処分撤回をめざしたたかう県職労ひとりだけの問題ではない。

会社はついに、十五回めの団体交渉の席でこれまでの「強行姿勢」を百八十度転換、①七百人は希望退職者を募集。②募集期間は五月六～十七日まで。③退職金は提案より増額する。さらに「個人説得、肩たたき、戸別訪問など絶対しない」――など、「時間がかかれば、会社の責任で対処する」と高言していたはじめの姿勢は、すっかり影をひそめていった。

これから組合は、「辞めたくない人は絶対に守る」ことを意志統一し、同時に春闘の立ち遅れをとりもどし、賃上げ二万円の要求を勝ち取るため闘いつづけて行くという。安川電機労組が、これからもねばりを発揮し、闘いで最後の勝利をおさめることを期待してやまぬ。

土木事務所前の抗議板

一人の犠牲者も出させぬ

首切り反対闘争に決起

安川電機労組

いま、まわりの労働者と組織の連帯にささえられながら、なかまの首切りをはね返し、賃金凍結の攻撃を撤回させる闘争を力強く進めている組合がある。

しかもその団結の力がついに会社を追いつめ、情勢を大きく転換させて注目を集めている。それは、北九州市の安川電機労組（荒田鉄男委員長。組合員六千六百人）である。

三月二十六日のこと、いよいよ春闘にさしかかった同労組に対して、会社は不意に七百人の人員整理と、賃金の凍結計画を提案してきた。不況とインフレが同時に進行しながら、いたるところで深刻な労働事情をさらけだしてはいるものの、同企業の労働者には大きなショックだった。

「一人の犠牲者もだすな」――組合は、闘いに起ちあがった。

さっそく職場の闘争組織を固め、四月二日から無期限時間外・休日出勤拒否。

四月十五～十六日、および十九日時限スト。

二十日は、地域の労働者と呼応して半日スト。

その間一方で組合は、人減らし合理化が集中している重電機労組の労働者との連帯を強めながら、一歩も退かず闘いを強めていった。

記念品展示の準備一歩前進

三池労組結成三十周年記念展の計画が進んでいることは既報の通りで、このほどいよいよその種目が、実行委員会の構成とともに明らかになった。組合では、「闘う三池労組の結成記念にふさわしいものとするために、全組合員と家族の積極的な協力がほしい」と強く要望している。

さて、展示種目と実行委員会の構成メンバーは次の通りである。

展示種目

闘争記念品　三池大闘争および三池労組結成以来の闘いをしのぶもの。

例……ホッパーパイプ。防具、旗、腕章、ハチマキ、タスキ、横断幕、ステッカー、闘争日記、日刊情報そのほか。

盆栽・生花　日ごろ丹精こめて育てられてきた鉢や、生花。

書画・写真　闘いの中で描かれた絵画、書。

それに、闘いをなまなましく思い起こさせる写真類。

職場新聞・詩・短歌・俳句・色紙類　説明は省略。

実行委員会構成

本部＝蒲池書記次長、宮本部長

盆栽・生花　黒田指導部長（港務）、伊藤（宮浦）、宮崎（四山）、草野（三川）、松島（本所）、中島（港務）。

書画・写真　中塵指導部長（宮浦）、嘉村（宮浦）、江上（四山）、平井（三川）、中村（本所）、姉川（港務）。

職場新聞・詩・短歌・俳句　東指導部長（本所）、高椋（宮浦）、片山（四山）、杉本・月野（三川）、山下（本所）、松原（港務）。

闘争記念品　沖指導部長（三川）、早田（宮浦）、甲斐（四山）、井上（三川）、西山（本所）、森（港務）。

×

重ねて、組合員・主婦会員・家族の皆さんのお力添えをお願いしておく。連絡は本部の蒲池書記次長（社内電話四七四番、または五七六番）まで。

なお、ご意見やご希望あればどしどしご連絡を。

メーデー記念催しに入賞者

大牟田地評主催のメーデープラカード展はメーデー大会当日行われ、約五十点にのぼる出展があった。

審査の結果、三池労組から二点の入賞作品を出したが、全体の成績は次の通りであった。

一位　三化労組
二位　右同
三位　三池（港務指導部）
四位　合化東圧労組
五位　三池（四山指導部）

×

九日大牟田地評で開催されたメーデー記念囲碁・将棋大会では、三池労組からは個人で四人、団体で一チームが入賞して気を吐いたが、それぞれ入賞は次の通りである。

囲碁

本因坊戦優勝　高木　四山
〃　二位　生清　市職
〃　三位　久保田　四山
新人戦　優勝　猿渡　港務
〃　二位　越智　国労
〃　三位　坂井　〃
団体戦　優勝　全九電
〃　二位　全日自労A
〃　三位　三川B

将棋

名人戦　優勝　原口　合化東圧
〃　二位　中原　全日自労
〃　三位　森原　三化
新人王戦優勝　釣出　全日自労
〃　二位　寺尾　国労
〃　三位　平川　港務
団体戦　優勝　三化A
〃　二位　三化B
〃　三位　全日自労